第 119 回 東葛しぜん観察会

秋の実（みの）りと彩（いろど）りを訪ねて

小島紀彦（我孫子市）

日　時：2024 年 11 月 17 日（日）9 時 30 分～12 時 30 分
場　所：清水公園内（野田市）　　参加者：22 名
指導員：相吉・鈴木と・林眞・林信・平田・山口・龍門、草野・鈴木護・小島　=10 名

昨年の同じ頃に予定していた催しだが雨で中止になり、一年延期で実施できた。この公園は醤油で有名なキッコーマンの子会社である春秋社が運営管理してる公園で創立は明治 27 年と歴史のある民間の公園が特徴。県や市の公園と同じく一銭もお金は取らない珍しい所です。3 班に分かれて公園の入口から資料で配ったマップに添って樹木の説明を始める。最初はヒマラヤスギ、枝先に俵状の球果が一杯あり、目の前で見られた。次にイヌマキへ、この種は千葉県の県木ですと説明、赤い果床の上に緑の種があるのを見た。入口の場所には色々な樹木がある。カツラが黄色に色づき始めており、いい香りがした。サンシュユに赤い実がなっていた、江戸時代に滋養強壮の薬として日本にきた。マメガキには黄色い実が一杯についておりタイトルの「実と彩り」の二つが見れますねと話した。金乗院に入ってイチョウが 2 本あり、奥に大木が見られた。イチョウと聞いて何を思いますかと聞いたら、殆どがぎんなんとの返事だった。裸子植物とか、イチョウには精子がいる事を日本人が発見したと話する。この境内にサラソウジュの樹がある。インドに自生するフタバガキ科の樹木で日本では植物園の温室以外では見られないのに、ここにあった。説明板があり、新宿御苑から苗木を譲り受け育てたとある。隣には日本でのシャラノキの名前のナツツバキがある。花は白くてきれいだが、一日花で朝に咲いて夕べに散る風情が平家物語にある沙羅双樹を連想させるのか、お寺さんに多く見られる。外国産の樹木は 今回は他にはアカガシワとテーダマツがあった。

公園で一番の価値を感じる「メタセコイア」の大きな三角錐の樹がある、まだ赤くなってなかった。イロハモミジの大木が並んでいる「もみじ谷」を通る。紅葉や黄葉になる仕組みの話をした。ハンカチノキ、タチバナ、シリブカガシ、ハルニレなど普段見られない樹がある。スダジイの場所で大きな樹が枝を目の前に伸ばしており、種が殻斗に覆われた二年生のドングリと今年になった赤ちゃんを比べて見た。ブナとイヌブナが近くにあり、葉の質や葉脈の数の違いやブナは葉の裏に毛がない、イヌブナは毛が一杯あるのを見て貰った。ケンポナシの樹の下に実が落ちてなかったが、事前に用意したのを見て貰って軸が食べれると話をした。時間配分が気になっていたが、時間通りに全部を廻れて、問題もなく無事に終われました。

最後に参加者に今日の印象を聞いたが「よかった」「楽しかった」「勉強になった」「木の名前と実物が一致した」「この公園は桜の時期に来たが秋にも魅力があるのが分かった」「樹木がこんなに多いとは知らなかった」などの話が聞かれ、有難いお言葉の多くを貰いました。

最後にここで見られた果実や球果を袋に詰め、⇒
纏めて布に貼った一覧の状態を見て貰った。
夏が長く秋の彩りが気になってたが、遠くから赤や朱や橙や黄色になったのも沢山見られた。指導員の皆さまにはお世話になりました。